

平成 28 年度 鹿児島県がん診療連携協議会 議事要旨

開催日時：平成 28 年 9 月 8 日（木）15:30～16:45

開催場所：管理棟 4 階第一会議室

I. 開会挨拶

上野鹿児島大学病院腫瘍センター長から、別紙出席者一覧により出席者照会があり、本日の協議会開催に向けて挨拶があった。

引き続き、鹿児島県保健福祉部健康増進課がん対策・歯科保健係の馬場係長より、挨拶があった。

II. 議 題

1. 平成 28 年度都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会の報告

上野委員長及び各部門より資料に基づき説明があった。

「がん登録部会からの報告」については、院内がん登録の全国的に増加傾向であること、がんデータ集計や公表方法の変更点、予後調査支援事業についての整備、生存率集計の公表、Q I 研究データ収集報告と二次解析について報告があった。また、今後の院内がん登録に係る検討事項として、集計値 10 以下の公表、個票データの固有番号化（C_I D付与）、予後調査に係るデータ保持期間の延長などへの対応について説明があった。

「情報提供・相談支援部会からの報告」については、がん相談支援センターの活動推進のために P D C A サイクル、活動の見える化に取り組んでおり、研究班によるパイロット調査の結果を基にがん相談支援センター指標骨子を作成したことの報告があった。さらに、今後は各県の問題を明らかにしてがん相談支援センターの取り組みを P D C A サイクルに乗せて、それぞれの県で取り組みを強化していく方向性が示された。また、今回の熊本大震災から、情報共有と連携システムを組織立てて検討していくことが必要であることを認識したことの説明があった。

「緩和ケア部会からの報告」については、緩和ケアセンターの整備状況の報告があり、人員確保及び財源などの問題点への対策が必要であることが述べられた。また、苦痛のスクリーニングの導入が進んでいるが、現在緩和ケアチーム等での実施が多く、院内での一貫したスクリーニングを行うことが求められており、今後の課題として、病院全体で苦痛のスクリーニング実施に取り組んでいくこととし、緩和ケアの向上を目指して P D C A サイクルを確保して施設訪問によるピアレビューを実施することを推進していくことの報告があった。

引き続き、上野委員長から、現在の国の方針として、情報収集を行い、それに基づいた個別医療を推進していくことを国単位で取り組んでおり、患者情報・データから高い医療に還元させること、遺伝カウンセラーなどの人材育成を整備することが必要なことの説明があった。

また、現在のたばこ対策の遅れが見られ、今後はがん対策の推進と禁煙支援に係る検討を進めていく必要があることの補足説明があった。

2. 鹿児島大学病院各部門からの報告

がん相談・連携部門からの報告について、田畑副看護師長より、鹿児島県がん相談支援センターにおける活動状況の報告があり、それらを踏まえて、①更なる相談員ネットワークの強化②地域のがん医療に携わるスタッフのネットワークを維持・強化しながら、がん相談支援センターの利用者増を目指す③自施設のがん相談支援事業を充実させる④教育、広報、情報誌作成、アンケートのWGを立ち上げ、より細かなP D C Aサイクルに取り組むことの4つの課題の説明があった。また、今年度の鹿児島県がん相談支援センターの目標として、①相談員のスキルアップ・質維持②がん相談支援センターの広報周知活動の強化の2つを目標に掲げたことの説明があった。

次に、グループ毎の重点項目について、

- ・教育班は、相談員のスキルアップ及び認定がん専門相談員研修を掲げ質の高い研修を企画する。
- ・アンケート班は、前年度のがん相談支援センターの認知度が3割程度だったことも踏まえ、がん相談支援センターの周知度向上を図るため、院内の相談支援状況調査を実施し、アンケートを行ってがん相談支援センターの周知度向上を図る。
- ・情報誌作成班は、鹿児島県がん冊子の完成を目標に、今年度はがん情報を集約し鹿児島県のHPに掲載することを進める。
- ・広報周知班は、県内で開催されるイベントに参加し、がん相談支援センターのPR活動を行う。ことの報告があった。

がん緩和医療部門の報告について、松下緩和ケアセンター長より、ほとんどの施設でスクリーニングに取り組んでいるが、まだ全部をカバーするところまでは進んでいないので、今後県全体で把握していくことすることの説明があった。

また、P D C Aサイクルの確保及び地域連携の強化を図ることを目標にし、今年度は、各施設緩和ケアセルフチェックプログラムシート等を使用して問題点等を洗い出し、来年度以降に各施設の相互訪問を行いながら解決に向けた協力体制を整備していくこと、現在実施している拠点病院と指定病院間での多施設合同カンファレンスに加え、在宅及び緩和ケア療養施設との合同会議等を行い、市内の在宅医会の医師の協力も得ながら、緩和ケア地域連携の強化推進を図っていくことが報告された。

がん登録部門の報告について、中筋診療情報管理士より、今年度から法的体制のもとデータ管理が行われ、がんデータの届出義務が提示されていることの報告があり、鹿児島県においては全国がん登録データの漏れが考えられるため、遡り調査により分析を行い、がん登録の精度を上げていく必要があることの説明があった。

また、鹿児島県のがん登録実務者体制、がん登録研修会、院内がん登録結果及び臓器別登録件数等の報告があり、続いて、今年度の取り組みとして、がん登録実務者の実態調査報告・スキルアップ支援、がんデータの精度管理と問題点抽出、予後調査体制の整備、鹿児島県のがんデータ管理体制の整備の説明があった。

3. がん登録データ・予後調査データの管理、運用について

村永がん登録部門長より、資料に基づき、がん登録データ・予後調査データの管理・運用について以下のとおり説明があった。

鹿児島県のがん登録は適切なレベルに達しておらず、予後情報の判明率が低いことからがん登録の精度向上の必要性が求められており、現在のがん登録データは、法律で規定された範囲内の利用に制限されており、県内のがん関連施設等による自由な研究活用ができない状況である。

以上のことから、蓄積された予後情報を含むがん登録データの更なる精度向上と自由な研究利用を目的とし、鹿児島県のがん診療連携拠点病院連絡協議会内で規定を整備し、患者の個別同意を取得した上でデータの共同利用を可能とする体制を検討しているので、関係者の方々に意識調査に協力いただきたい旨依頼があり、回答期日については担当者から追って連絡することで了承された。

III. その他

鹿児島医療センターより、10月15日（土）開催の「平成28年度第2回がん診療における医科歯科連携講習会」の案内があり、医科系の医療関係者にも多数参加していただきたい旨の依頼があった。

IV. 閉会挨拶

鈴木鹿児島大学病院副腫瘍センター長から、閉会の挨拶があった。

終了